南葵音楽文庫ミニレクチャー　vol.50

南葵音楽文庫を知る ー 基本の基本 ー　1．頼貞の「思い」

美山良夫

2018 年 12 月 7 日（金）18：15　南葵音楽文庫閲覧室（和歌山県立図書館内）

1. 文庫から図書館へ　　南葵/音楽/図書館 の意味

1902 南葵文庫開設　c.1916 南葵文庫音楽部設置　1923 震災　1924 南葵楽堂図書部　1925 南葵音楽事業部（**南葵音楽図書館**）　c.1950 以後南葵音楽文庫

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500

1908（明治 41）日本文庫協会が日本図書館協会に　高山正也；歴史に見る日本の図書館

私設私営（vs 公設公営）/　専門・研究（vs 総合）　/　システム（vs コレクション）

2. 音楽事業　音楽事業部の組織化（1925）　前と後

『蓍庭樂話』より

▸ ニューヨーク（1915 年帰国途上）　「この資産家も初代は浪費したかも知れない。然し二代目、三代目となると、もう彼等は立派な教養を備へて、學問や藝術の道を開拓するやうになる。米國にある多くの美術館、圖書館、或は歌劇場、音樂堂など、いろいろな學問藝術上の施設が、總てこれらの資産家の寄附で成立つてゐる事を思つて私は大變よい示唆を受けた。」

▸ 東京（1934 年）　東京音樂學校の管絃樂は、指揮者プリングスハイム氏を迎へた當時、あらゆる飛躍を試みて、どんどん新しい事をしたが、その一つとしてリヒァルト、シュトラウスの「アルペン・ジュンフォニー」を演奏することになつて、私の處にその樂譜の借用を申越して來た。

　この樂譜はずつと前に、自分が紐育で求めたもので、長い間書庫に眠つてゐたものである。それが漸く世の中に現はれることになつたので、自分は限りなく喜んで、音樂學校の申出を快諾した。演奏會は昭和九年十月三十一日午後七時半日比谷の公會堂で華々しく開催され、このシュトラウスの名曲は始めて日本に紹介されたのであつた。

音楽堂の設置と運営　1918 南葵楽堂落成，演奏会開催　1920 オルガン設置　1923 震災　1928 オルガン寄贈

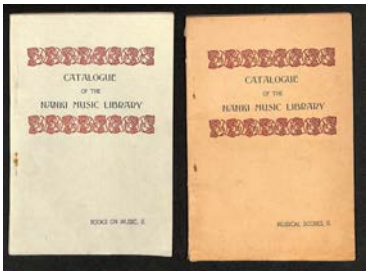
音楽家の招聘や支援　1923 ホルマン招聘　来日音楽家への支援

演奏、演奏会の支援　1924「第九」日本人による初演　1934《アルプス交響曲》初演（ともに東京音楽学校）

音楽研究の環境整備、支援や出版　南葵音楽叢書（３点）1923、ヘンデル《グローリア・パトリ》校訂版 1928、田村貞寛『ベートーヴェンの第九ジュムフォニー』1924　『日本音楽集成 第一編　雅楽第一輯　催馬楽』1930

音楽図書館の構築・運営（基盤として）

3．音楽図書館構築・運営の内容と方向



専門資料の蒐集

専門図書館の調査をふまえた音楽事典、基本図書、専門誌、全集楽譜、大集楽譜の系統的積極的蒐集。歴史的な文献、貴重・稀少資料の入手、非流通資料の受贈、レコードの収集等

調査研究

音楽研究者、書誌研究者との協働、『南葵音楽図書館所蔵カミングス文庫に就て』 1926　など所蔵資料の調査、海外視察

教育普及

所蔵資料展示会　外部展示会への出品　講演会等の開催

閲覧支援

所蔵目録（英文）出版、専門図書館に相応しい設備（閲覧室、試奏室、試聴室、製本室）、資料分類法、図書館用品の研究

以上全体を統括する組織，専門スタッフ、資金

官と民

4．頼貞の「思い」とは

先駆・先見性　　即決・即応性　　公開・貢献性